

取得者の体験談

独立開業してからが勝負 業務の中から学ぶ姿勢が大切

◎バブル期の不動産価格への疑問がきっかけ

父親が経営する不動産会社を手伝うために、最初は宅地建物取引主任者資格を取得した海老沼さん。その後、時代背景もあり、不動産鑑定士へのチャレンジを決定した。

「バブル前に不動産の値動きの激しさを目の当たりにし、その価格へ疑問を抱いたことが資格取得のきっかけです」
苦手な科目はあったものの、2回目で2次試験に合格し、不動産鑑定事務所勤務後、1度で3次合格を果たした。

◎実務で頑張れば報酬で結果が出る

もともと法律系には強かった海老沼さんは、2次の発表前に行政書士を受験し合格した。行政書士の幅広い業務と、不動産鑑定士、そして宅建の資格を生かすことで、変化に富んだ刺激的な仕事ができると言う。

「営業方法は秘密です（笑）。独立するからには、営業活動は不可欠だと思います。やっただけ報酬に直結するので、実務の追求は徹底し、それだけに、日々の業務の中で勉強していく姿勢は欠かせません」



海老沼利幸さん

不動産鑑定士 海老沼事務所
/ 行政書士 海老沼利幸事務所

1964年生まれ。不動産鑑定士2次合格後、行政書士資格も取得。不動産鑑定事務所勤務後、不動産鑑定士3次試験に合格し独立。現在は不動産鑑定業務を中心に活動。

○ステップアップのための資格

広がるビジネスチャンス

従来、不動産鑑定士の業務の中核は、不動産が市場価格を形成する前の基本的な価格を評価することだった。しかし近年では、それに加えて不良債権の評価、不動産証券化のための評価、企業合併による資産評価など、不動産ビジネスに進出する機会が増えている。こうした案件を手掛けるには高度な鑑定技術を要し、不動産に関する知識

や法律知識のみならず、金融、会計といった周辺知識の習得が不可欠となる。

公認会計士にチャレンジ

仕事のステージを広げたい人は、鑑定士2次合格者の科目免除制度を利用して公認会計士に挑戦してみよう。金融全般の知識を習得するには、AFPやCFP、ファイナンシャル・プランニング技能士といったFP関連資格の取得を目指すのも有効だ。